

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100666
法人名	有限会社 やわらぎ
事業所名	グループホームいくし
所在地	松山市生石町472
自己評価作成日	平成25年11月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

基本的な業務の流れは作っているが、入居者の「その時」を優先し、職員の気づきを大切にしながら、柔軟な対応・支援ができるように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

近所のパン屋さんに歩いて出かけ、好きなパンを買ったり、イトインコーナーを利用することもある。ご本人の希望で、時計のベルトの交換や補聴器の調整に出かけることもある。数名で七折梅まつりや双海のイチゴ狩り、杖が淵公園に出かけたり、回転寿司で外食することもある。介護度が重度の利用者については、2階のベランダに出てひなたぼっこをしたり、敷地内のスペースに出て外気にふれる機会を作っておられる。
時には、バラの花びらを散らしたバラ風呂や、レモンを浮かべたレモン風呂を楽しむこともあるようだ。できることはなるべくご本人に行ってもらえるよう支援し、できないことを職員と一緒にできるような支援に努めておられる。
移転前から猫を飼っておられて、利用者がエサをやったり、撫でてやり、みな話題や癒やしになっている。居間の南全面はベランダになっており、プランターで季節の花を育てておられる。ご家族の方がチューリップの球根を植えてくださったり、利用者と花の苗を買って来て水やり等の世話をされている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームいくし

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

石井 夕加里

評価完了日

平成25年 11月 6日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念をつくり、日々の介護につながるよう努めてはいるが、日常的な実践まではできていない。	
			(外部評価) 法人移行前からの事業所理念である、「1. 医療なしの介護、介護なしの医療はありえないとの考えのもと、入居者の心身のケアに努める。2. 共同生活の中でお互いの生活歴を認め合い、自由に自己決定できる生活」を継続して掲げておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 夏祭りの開催や秋祭りの子供神輿等で地域との関わりの場を設け交流に努めているが、日常的な所まではいっていない。	
			(外部評価) 町内会に加入されており、回覧板を利用者と一緒に回したり、散歩時には、顔見知りの方に出会うとあいさつ等しておつきあいされている。隣接する系列小規模多機能事業所とともに毎年、夏祭りを開催されており、民生委員の方の協力も得ながら地域の方のお宅にポスティングをして案内された。今年も、利用者やご家族、地域の方々、約100名ほどの参加があり、当日、事業所では売店を担当された。フリーマーケットには、以前、事業所で看取った方のご家族が、毛糸で編んだ帽子を数点出品してくださった。又、ちらし寿司は、利用者が盛り付けてバック詰めをしてくださった。地域の婦人会の方々は盆踊りを教えてくださり、利用者も練習して、当日、皆と一緒に盆踊りも楽しまれた。地域の子ども達も多数集まり、利用者の笑顔も多くみられたようだ。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議を通じて活動内容を報告し、ご意見やアドバイスなどを頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 定期的に運営推進会議を開催し、現状や活動内容を報告している。</p> <p>(外部評価) 会議は、町内会長、民生委員、ご家族等に参加いただき、隣接する系列小規模多機能事業所と合同で実施しておられる。ご家族は、毎回数名の方が参加されている。会議では毎回、利用者の状況や活動報告を行い、その後は、テーマを決めて意見交換されている。「事業所の日常と課題」をテーマに挙げた際には、利用者の重度化に伴い、外出支援が難しくなっている現状を説明された。町内会長からは、「地域の行事に参加したくても、職員だけでは対応し難いんですね。秋祭りには、事業所に少しでも長くお神輿がいれるようにしますね」と言っていた。民生委員と地域包括支援センターの担当者からは、ボランティアの活用についてアドバイスをいただいた。管理者は、今後の会議では、事業所の取り組みを発信しながら、さらに、認知症をテーマに参加者と一緒に勉強する機会を作る等して、地域の方々のお役に立てるような事業所になっていきたいと話しておられた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日頃から、何かあれば市町村担当者に連絡を取って意見を伺っている。また、運営推進会議や実地指導を通じて協力関係を築くように努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に市や地域包括支援センターの担当者が参加されており、事業所からの相談等にアドバイス等をくださっている。避難訓練の際には、地域の応援体制や職員の緊急時の体制について提案してくださった。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束は行っていない。スピーチロックについて勉強会などで学び、身に付くよう取り組んでいる。勉強会以降に入職した職員については学ぶ機会を作っていない。日中は施錠せず、出入り自由である。</p> <p>(外部評価) 事業所は建物の2階に位置しており、利用者はエレベーターや階段で上がり降りされている。利用者の中には、昼夜を問わず「帰りたい」「気持ちの強い方」「買い物に出かけたい」と希望する方がおられ、職員は、利用者それぞれに、「そわそわする」「靴を持つ」等、兆候を掴んでおられ、日中は、声かけと一緒に外に出たり、利用者の後から付いて行き、お好きなように歩いてもらえるよう支援されている。夜間については、現状を踏まえてミーティングで話し合い、「出入り口に目隠し程度、ラティス状のパーテーションを立ててはどうか」と、法人に相談しているところである。骨折して入院し退院された利用者については、家族の了承を得て夜間のみベッド柵を使用しているケースがある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会で学ぶ機会をもち、職員皆で防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 全職員が理解を深め活用できるようにはなっていない。勉強会で理解を深めるように努めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、内容を確認し合い、理解と了承を得られるように努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日々の面会時等に意見や要望を伺う機会を持ち、スムーズな対応ができるように努めているが十分とは言えない。また運営推進会議等でも第三者を交えて色々な意見を聴く機会を設けている。	
			(外部評価) 季刊の「いくし便り」は職員が交代で発行されている。以前、ご家族から「写真をたくさん載せてほしい」と希望があったことを機に、カラー刷りにして、外出・行事や普段の暮らしの様子の写真を多く載せ、便りを作っておられる。他には、運営推進会議の議事録や新人職員の紹介、職員研修の報告、「いくし村喫茶店」の案内等を載せておられる。遠方に住むご家族は、帰省された際には毎日食事介助に来られるようだ。足遠いご家族には、毎月の利用料を持参していただけるようお願いされている。ご家族来訪時には、利用者個別に作成したアルバム等をみていただきながら、暮らしの様子を報告されたり、ケア等についての要望をうかがっておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月に一度のミーティングで意見や提案を聴く機会を設け、それらを反映できるよう努めてはいる。	
			(外部評価)	
			職員からの提案で、研修時に歯科医師を招いて「口腔ケアセミナー」を実施された。利用者一人ひとりに合わせた口腔ケアを身に付けるきっかけとなったようだ。食事介助が必要な利用者が「気兼ねなく食事ができるように」「他利用者も快適に食事できるように」と、職員で話し合い席順を検討されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			難しい面はあるが、休憩時間を確保している。可能な限り勤務希望を受け入れ、好きな時に有給休暇を取得できるような環境づくりに努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			法人内外の研修を受ける機会の確保、環境ができています。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			同業者と合同研修を開催したり、新人研修のための相互研修に参加しサービスの質の向上に努めている。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居時に面談し、本人の不安や要望を伺い、安心して生活ができるように努め、取り組んでいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時に面談を行い、ホームやケアに関する疑問や不安など気になることを伺い、またそれらが率直に話せる関係づくりに努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面談で得られた「その時」を職員間で共有し、ケアプランに反映して、必要としているサービスが利用できるよう対応に努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 花植え、おやつ作り、家事などできる範囲で一緒に行いながら共に過ごし支えあう関係づくりに努めている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族との程よい関係を築きながら、お互いに協力して	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) いつでもご家族、知人の方などが自由に面会に来られている。遠方のご家族には、定期的に電話する機会をもち、関係が途切れないように努めている。また、慣れ親しんだ場所へ出かけたりできるように支援に努めている。	
			(外部評価) 隣接の小規模多機能事業所では、毎月2回、「いくし村喫茶」として、地域の方も交えながらお茶を楽しむ機会を設けておられる。利用者も、職員やご家族と一緒に参加され、いろいろな方と交流できる場になっている。遠方に住むご家族で、利用者に頻りに電話を掛けてくださる方がおられ、利用者の様子を踏まえて「利用者ご本人がお話したい時に電話を掛けてみることはどうか」と職員から提案され、ご本人がお好きな時にご家族とお話ができるよう、支援しているケースがある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者の重度化に伴い関わり合いは少ない。その中でも互いに心遣いや関わり合いが持てるように、また言い争いなどの場面では、間に入って取り持つなどして支え合えるような支援に努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 状況に応じて相談や支援ができるように努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 介護記録やご家族の話を通じて、意向や希望の把握に努め、ケアプランに反映できるように取り組んでいる。 (外部評価) 入居前の暮らしぶりについては、ご本人・ご家族等にお聞きした内容をまとめておられる。その後、センター方式のアセスメント表を用いて、できることできないこと、わかることわからないことについて、3ヶ月毎に情報を追加更新され、一人ひとりの希望や意向の実現につなげられるよう取り組まれている。日々の介護記録は、ご本人、職員、その他の人を の印で示し、やり取りがわかりやすいようにされている。利用者が地域の理容店で散髪する際、ご本人が好みをうまく伝えられないような場合は、職員が以前の髪型が分かる写真を持参して伝えるようにされている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人やご家族から話を伺い、できる限り把握できるように努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 心身の状態を介護記録に留め、現状の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>月に一度のミーティングで職員が話し合って現状に即した介護計画の作成に努めている。介護計画の作成前に本人やご家族の意向を伺っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、「ご本人がどうしたいのか」生活者であるご本人を主体とした計画作成に努めておられる。日常の会話の中のご本人の言葉を職員間で話し合い、プランに採り上げることも多々あるようだ。「芦ノ湖へ行きたい」という希望を持つ利用者には、長期目標に「旅行が楽しめる体力、下肢筋力を鍛える」ことを挙げ、短期目標として、「食事の下膳や公園への散歩、パン屋へ買い物」等、地域資源を活用しながら、利用者のできることや好きなこと等を活かして支援できるよう工夫されていた。毎月モニタリングを行い、3ヶ月毎に計画を見直しておられる。ベッドで長時間を過ごす利用者のご家族からは、「ベッドを南向きにしてほしい」「胃ろうだが、1日1回は口から食べさせてほしい」等の希望も計画に採り入れておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個別の記録は状況に応じて記載事項を増やすなどして、職員間で情報を共有しやすいよう取り組んでいる。また実践や介護計画の見直しに活かせるよう努めている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>状況に応じて他部署の事業所と連携を取りながら、柔軟な対応ができるように努めている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>努めてはいるが、利用者の重度化もあって、積極的な協働はできていない。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) その時に応じて、適切な医療を受けられるように取り組んでいる。	
			(外部評価) ご本人・ご家族の希望で、ほとんどの利用者が、同じ建物の1階にある協力医療機関をかかりつけ医にされている。月2回、往診があるが、利用者の状態によってはその都度、往診が受けられるようになっている。専門医は、ご家族が付き添い、都合のつかない時には職員が同行されている。歯科については、訪問歯科を利用できるようになっている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 気づきや疑問など、日常的に相談しながら、適切な受診や看護を受けられるように支援している。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 医療機関と連携し、安心安全に暮らせるように努めている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に看取りの方針を説明し、状態の変化に応じて、ご家族や主治医と連携を取りながら方針の共有化に努めている。	
			(外部評価) 今年度、1名の利用者を事業所で看取られた。カンファレンス時には、ご本人がしんどくないケアを前提に、「必要であれば点滴をしながら自然な形で最期を」との方針を共有し、又、「食べられなくても無理しない」「夜の水分補給で無理に起こさない」等、支援のポイントについても確認された。ご家族は、毎日夕方に来訪され、最期の3日間は日中も付き添われた。ご家族からは後日、お手紙をいただいたり、訪問していただき、「ここで良かった。思い出の中に母が生きている」等の感謝の言葉をいただいたようだ。支援後は、ミーティング時に振り返る機会を持たれたり、今後の運営推進会議でも支援について報告する予定となっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急の実技研修を受講したり、事業所内で勉強会を開き、適切な対応ができるように取り組んでいる。今後も全職員が身につくように訓練に努めていく。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練を実施している。特に夜間を想定した訓練も行っている。防災士でもある町内会長や民生委員の参加も得て率直な意見を伺っている。	
			(外部評価) 5月には、運営推進会議と併せ、防災士である町内会長や民生委員、職員、利用者が参加して避難訓練を実施された。11月には日中の火災を想定した避難訓練を行い、後日の運営推進会議時に訓練の振り返りを行われたり、他事業所の検証DVDをみて参加者と一緒に学ばれた。消防署からは、「利用者の状態によって優先順位を判断できるような情報共有の工夫が必要」とアドバイスがあった。又、民生委員からは、タオル3枚で作る簡易頭巾の作り方を教えていただき、今後、裁縫が得意な利用者が縫ってくださることになっている。備蓄については、現在、飲料水を置いておられ、今後は、レトルトのお粥等、利用者の食べられるものについて検討していきたいと話しておられた。	
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 心掛けてはいるが、慌ただしくなると声のトーンが高くなったり、言葉遣いがぞんざいになっていることもある。勉強会や事業所内の自己評価表で振り返りながら気持ちの良い対応ができるよう努めている。	
			(外部評価) 管理者は、利用者への声かけについて、「かしこまり過ぎず、距離を図りながら親しみのある言葉遣いをするように」と職員に話しておられるが、職員が手薄な時間帯や食事時等に気になる声かけがみられることもあるようだ。職員は、2ヶ月毎にマナーや接遇について自己評価を行っておられ、その評価をもとに、管理者と面談してケアを振り返っておられる。管理者は「介助する際は声をかけてからかかわること」や「トイレや入浴支援時には、ドアを閉めること」等、その時々を捉えて職員に話しておられる。	職員の気付きはケアの質向上への最大の起点でもあり、ケアを振り返る機会等も活かして職員で話し合い、今後も、事業所のケアの質向上に取り組んでいかれてほしい。そのような取り組みを運営推進会議時にも報告されてはどうだろうか。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定できる方には、できる限り本人の思いを伺い、自分で決められるようわかりやすく説明するなど支援に努めている。できない方は、より良い方を職員が選択している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 自立度の高い方は、それぞれのペースで生活されており、意向を伺いながらできる限り、支援している。できない方には、表情や様子などから察し、より希望にそえるような支援に努めている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の状況に応じて支援できるように努めている。不十分な面もみられるので、徹底できるように努める。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の状態に応じて支援に努めている。階下の厨房で作られたものを、個々の食事形態に合わせて整えているため、一緒に作って楽しむ機会を作れていない。少しでも美味しく安全に食事して頂けるよう努めている。	
			(外部評価) 食事は、業者から決まった献立で食材が届き、建物内にある法人の厨房で調理した食事が届くようになっている。事業所の台所では、利用者の好みに合わせて、やわらか目のご飯を炊いたり、利用者個々の状態に合わせて、トロミや刻みに加工されている。ホームベーカリーで焼いた食パンを利用者がご自分の食べたい厚みに切ったり、巻きずしを切り分けてくださることもある。調査訪問日の昼食には、職員と利用者が会話しながら和やかに食事をされており、食べ終わった利用者が下膳する様子も見られた。時には、食事介助に来られたご家族から、「食材が硬い」と意見があったり、利用者からは、「味が薄い」等の意見が出ることもあるようだ。利用者、ご家族、職員等の意見を拾い上げて、来月、事業所の「食事」について業者と話し合いを行うようになっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々に合わせた、水分量や食事量を把握し、支援に努めている。必要な方には、ご家族に相談・提案して栄養補助食品なども取り入れ、無理なく栄養を摂って頂けるよう努めている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個々の状態に応じて対応し、口腔ケアに努めている。セミナーに参加し口腔ケアの重要性について学び、以前より実践できるようになってきた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンやできる力を見ながら、可能な限りトイレで排泄できるように努めている。 (外部評価) トイレのドアには、「使用中」「あき」と表裏に書かれた札を下げられて、調査訪問時には、トイレの「使用中」の札を確認して、そばにあるソファに座って順番を待っている利用者がおられた。トイレの便器の左右、前方に可動式の手すりを取り付けてあり、利用者の状態によって使用できるようになっている。又、壁面にも動線に沿って手すりが設置されている。車いすを使用する方でも、座位を保持できる方には、2人介助でトイレで排泄できるよう支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 飲食物の工夫など個々に応じた予防に取り組んでいる。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) できる限り希望に沿った対応ができるよう努めているが、利用者の状態や人員などの都合でできない面がある。 (外部評価) 週に2～3回、ほとんどの方が湯船で温まれるよう支援されている。湯船の出入り時に危険を伴う利用者は、足湯しながらシャワー浴で支援されている。シャンプー、トリートメント、ボディソープ等は、買い物に出かけた際、好きなものをご本人に選んでもらい、個々のものを使用されている。時には、バラの花びらを散らしたバラ風呂やレモンを浮かべたレモン風呂を楽しむこともあるようだ。できることはなるべくご本人に行ってもらえるよう支援し、できないことを職員が一緒に行えるような支援に努めておられる。ひとりで入浴する方には、職員が脱衣所から見守り、安全にゆっくり温まってもらえるよう支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) それぞれの生活リズムに合わせて休息されている。室温や環境を整えて安眠ができるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の薬剤情報表を介護記録に挟み、各職員が確認したり対応ができるように努めている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の状態に合わせて少しでも楽しみが持てるように、またご家族にも協力して頂きながら、外出など気分転換ができるように努めている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個々の状態に合わせて行事を企画し、出かける楽しみが持てるように取り組んでいる。希望があれば可能な限り意向に添えるよう努めている。 (外部評価) 近所のパン屋さんに歩いて出かけ、お好きなパンを買ったり、イートインコーナーを利用することもある。ご本人の希望で、時計のベルトの交換や補聴器の調整に出かけることもある。数名で七折梅まつりや双海のイチゴ狩り、杖が淵公園に出かけたり、回転寿司で外食することもある。介護度が重度の利用者については、2階のベランダに出てひなたぼっこをしたり、敷地内のスペースに出て外気にふれる機会を作っておられる。	介護度重度の利用者も多く、支援に難しい面もあるが、体調等もみて、ご家族とも相談しながら、思い出の場所や懐かしい場所等に行ってみるような支援に工夫できないだろうか。職員は、「温泉がお好きな方には、以前、よく利用していた道後温泉に入り、道後商店街に立ち寄ったり、又、デパートで買い物をして観覧車に乗ってみる等も支援したい」と話しておられた。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理できる方は所持されている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 可能な方は年賀状や手紙の返事など、一緒に書いている。電話も掛けたり、支援に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 空間的な余裕が少ない面があるが、少しでも居心地良く過ごせるような工夫に努めている。</p> <p>(外部評価) 事業所は建物の2階に位置しており、1階は協力医院、3・4階は高齢者専用シェアハウスとなっている。浴室の入り口には段差があるため、カラーテープを貼って段差が目立つように工夫されていた。居間のテーブルには、ご家族が持って来てくださったバラの花を活けておられ、法人代表者作のとんぼの竹細工や、レモンを栽培しているご家族からの差し入れのレモンを籠に入れて飾ってあった。移転前から猫を飼っておられて、利用者がエサをやったり、撫でてやり、みな話題や癒やしになっている。居間の南全面はベランダになっており、プランターで季節の花を育てておられる。ご家族の方がチューリップの球根を植えてくださったり、利用者との花の苗を買って来て水やり等の世話をされている。利用者は、ベンチに座って洗濯物を干してくださることもある。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 空間的な余裕が少ない面があるが、廊下にソファや椅子を配置し、程よい距離感が持てるように努めている。</p>	
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 個々に応じた居心地良い空間づくりに努めている。</p> <p>(外部評価) 居室に位牌を置かれている方は、調査訪問時の昼食後、職員が用意したご飯をご自分でお供えしておられた。テレビ、洋服ダンス、冷蔵庫、茶箆筒、湯沸かしポット等を置き、時には、カップラーメンを食べる方もいるようだ。介護度が重度の方の居室は、ご家族が手作りされた表札を掛けておられ、居室内には、天井から手作りのモービルを下げ、家族旅行の写真を飾っておられた。ご自分の思いをノートに書き込む方は、ベッドサイドにノートを置いておられ、書くことで気持ちが落ち着かれるようだ。ご家族が、大きな数字のカレンダーをかけておられたり、ベッド上でも電気を点けたり消したりできるよう、職員と利用者で長めのひもを毛糸で編み、付けている居室も見られた。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) トイレと分かるような表示、段差には目立つ色テープを貼ったり工夫に努めている。更に玄関周りの安全に工夫が要る。</p>	